

# 玉川上水開削工事跡（みずくらいど）

【交通】 JR青梅線拝島駅東口下車徒歩5分

雪の日の「みずくらいど」

## ○玉川上水

玉川上水とは今から約350年前の承応三年（1654）、江戸幕府が江戸町民の飲料水の確保を目的として、多摩川の水を取り入れて開削した上水のことです。羽村の取水口から四谷大木戸まで、その距離は約43kmにおよびます。江戸時代の大規模な都市給水施設であり貴重な土木遺産として、平成15年には国の史跡に指定されました。

## ○開削の謎

玉川兄弟により作られたとされる玉川上水の開削については謎が多く、詳しいことはわかっていません。それは、開削当時の資料が発見されていないからです。

上水が完成してから149年後の享和三年（1803）、八王子千人同心の小島文平によって書かれた『玉川上水起元并野火止村引取分水口之訳書』という書物の中に、興味深いことが書かれていました。これによると玉川上水は2度にわたる工事の失敗のあと、3度目の工事にして上水は完成したというのです。最初は現在の国立市青柳付近から掘りはじめて失敗し、次は福生から掘りはじめて失敗したと記されていました。福生での失敗は、上水に水を流したら熊川村（現在の福生市熊川）で水が残らず地中に吸い込まれてしまったといいます。このことから水喰土「みずくらいど」の名が誕生しました。

## ○みずくらいど

市内熊川を流れる玉川上水に五丁橋という橋が架かっています。この橋の下流約100m地点から古い堀跡が遺されています。これが「みずくらいど」といわれる玉川上水開削時の堀跡です。

玉川上水の福生からの取水については不明ですが、失敗に関しては、この「みずくらいど」の古堀のことを示しているのでしょうか。古老に聞くと、以前は堀跡がはっきりと遺っていたそうです。現在、古堀が確認できる地点は、八高線と五日市線の間のみとなってしまいました。住宅などの開発により、堀跡が削られてしまったからですが、昭和22年（1947）の航空写真を見るとはっきりと堀跡が確認できます。

玉川上水は、「みずくらいど」で通水に失敗したため、現在の流路に掘りかえられ、旧水路はそのまま廃棄されたのでしょうか。熊川にある旧家の江戸時代の古文書には、「ほりかいち」・「水喰所」・「水喰戸」といった地名の記述が見えます。



現在、玉川上水開削工事跡は福生市指定文化財としてみずくらいど公園内で保存されています。堀跡を見学しながら、玉川上水開削の謎に迫ってみてはいかがでしょうか。

【問い合わせ先】 福生市郷土資料室（文化財係）  
TEL 042-530-1120